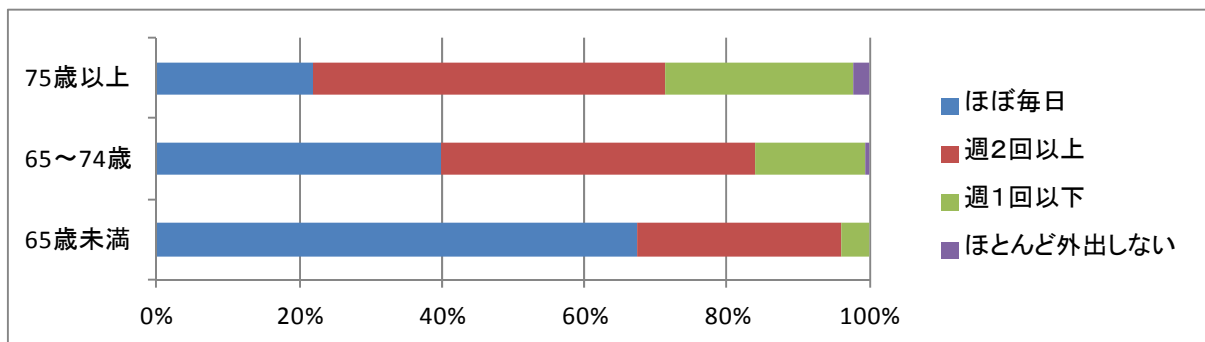


参考2：アンケートの追加集計について

日常の外出の状況

●外出の頻度

外出の頻度を65歳未満、65～74歳、75歳以上でみると、ほぼ毎日外出していると答えた方が65～74歳では4割いるが、75歳以上では2割近くまで下がっている。反対に週1回以下、または、ほとんど外出しないと答えた方が、75歳以上では約3割となっている。

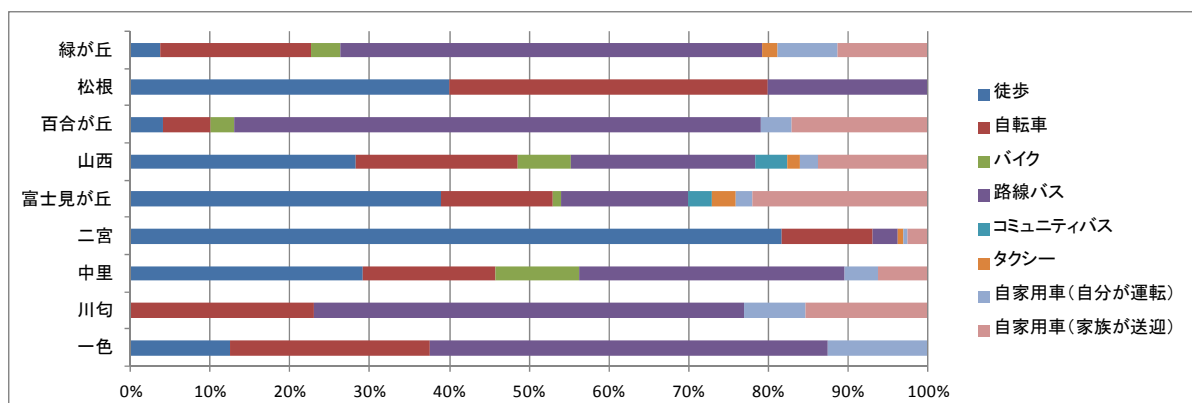


鉄道やバスの利用状況

●駅までの利用交通手段

駅前での利用交通手段を地区別にみると、緑が丘、百合が丘では路線バスの利用率が高く、山西、富士見が丘地区では、路線バスの利用率はやや低いが、コミュニティバスの利用がある。

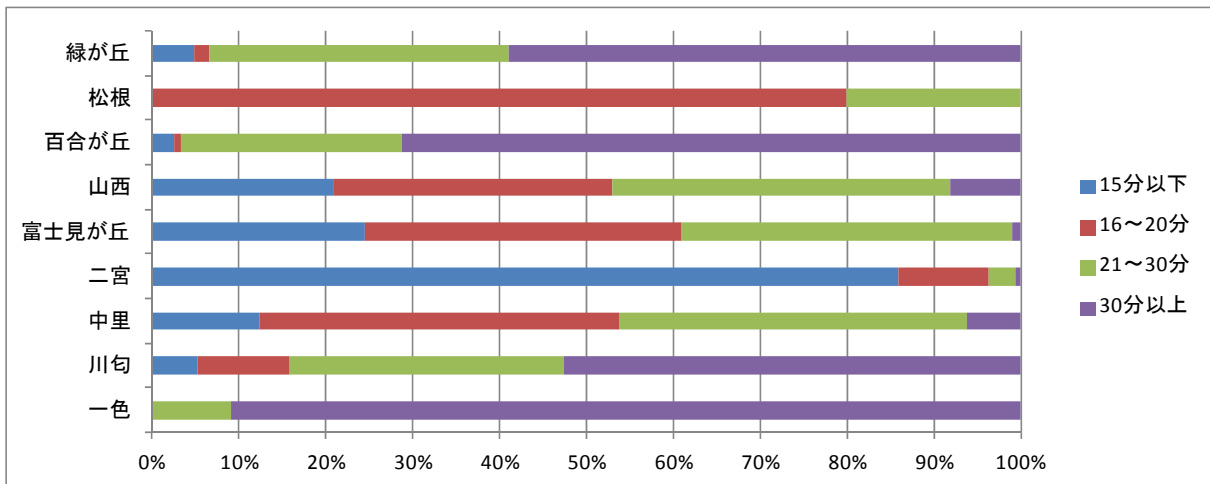
二宮地区は徒歩が8割以上であり、マイカー送迎の割合が高いのは、富士見が丘、百合が丘、川匂、山西の順となっている。



●自宅から駅までの徒歩時間

自宅から駅までの徒歩時間を地区別にみると、駅からの距離が遠い一色、緑が丘、百合が丘、川匂地区は20分以上かかると回答した方が8割以上となっている。

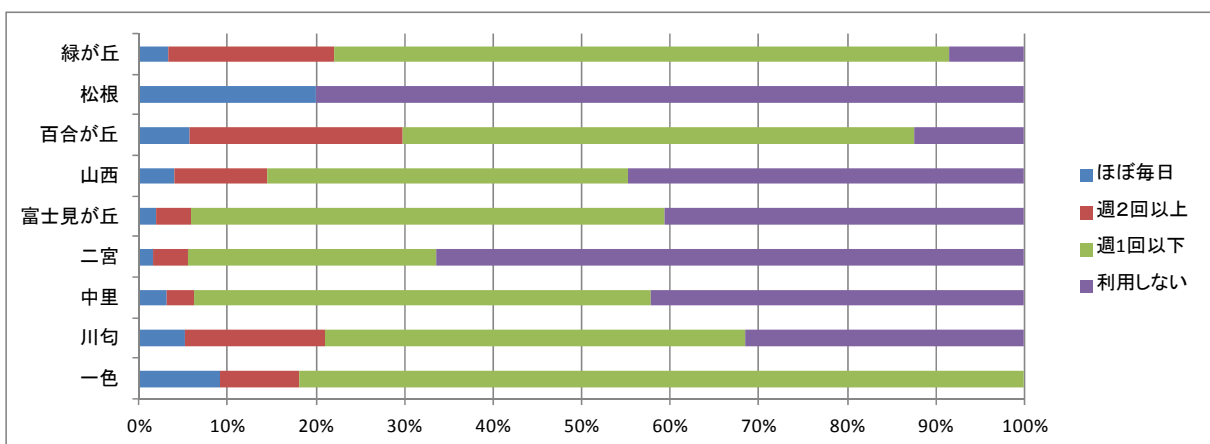
山西、富士見が丘、中里地区については、ばらつきが大きい。



●公共交通の利用頻度

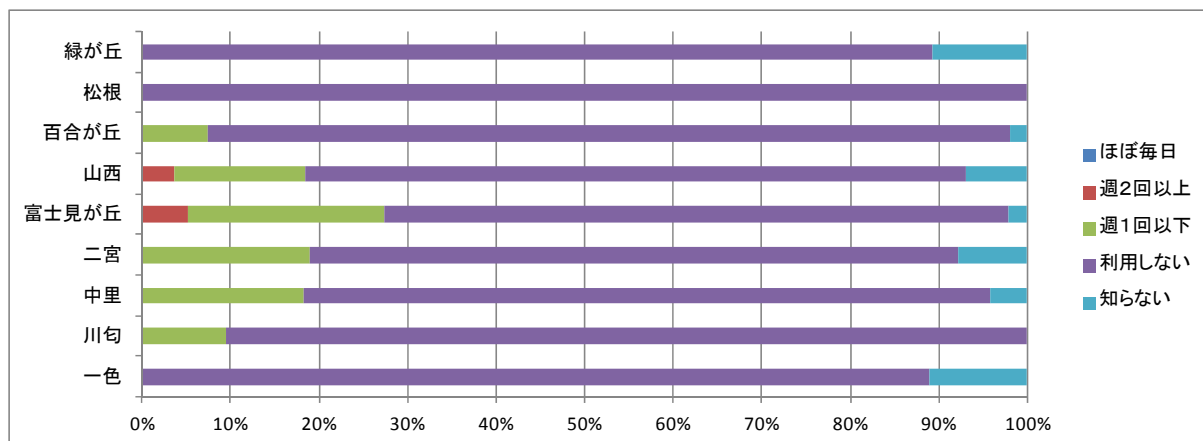
□路線バス

地区別に路線バスの利用頻度をみると、緑が丘、松根、百合が丘、川匂地区では週2回以上の利用が2割を超えている。駅から近い二宮地区を除くと、山西、富士見が丘、中里地区の利用率が低く、路線バスの利用がしにくい地区と考えられる。



□コミュニティバス

地区別にコミュニティバスの利用頻度をみると、ほぼ毎日利用している人がいる地区は無く、週2回以上利用している人がいるのは、山西、富士見が丘地区となっている。緑が丘、一色地区ではコミュニティバスを知らない人が1割以上いる。

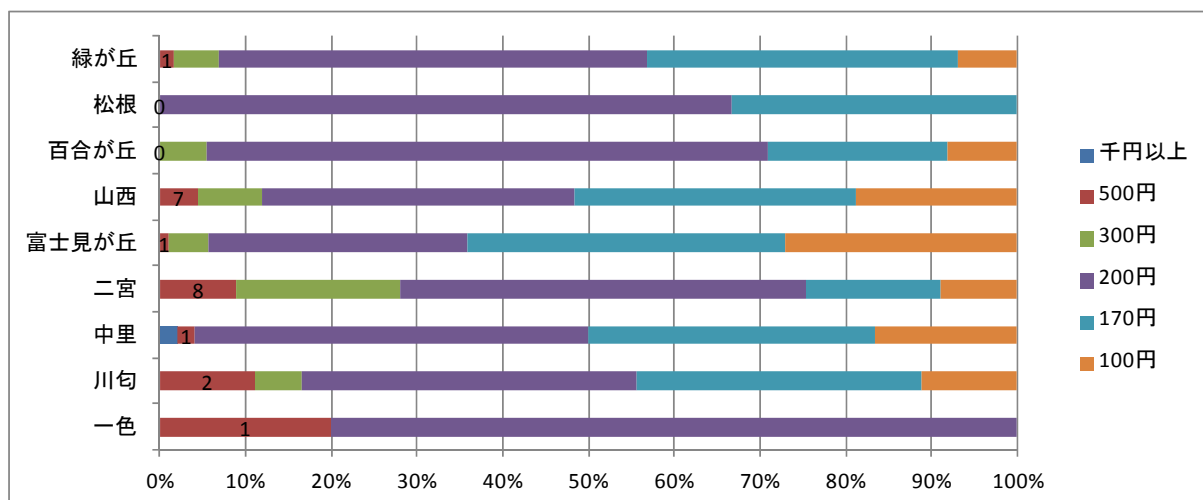


バスの利用条件

●運賃の限度額

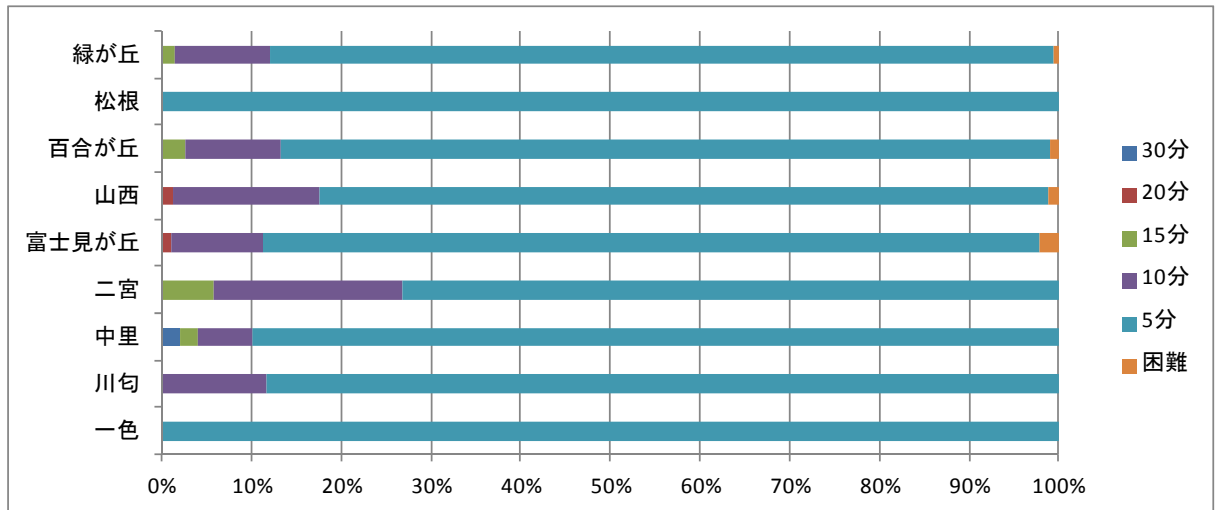
地区別にバス運賃の限度額をみると、富士見が丘、山西、中里地区では、路線バスの初乗り運賃と同額の170円以下を望む方が半数以上いる。

500円以上でも乗りたいと回答した方が多いのは、二宮（8人）、山西（7人）である。



●バス停までの徒歩時間の限度

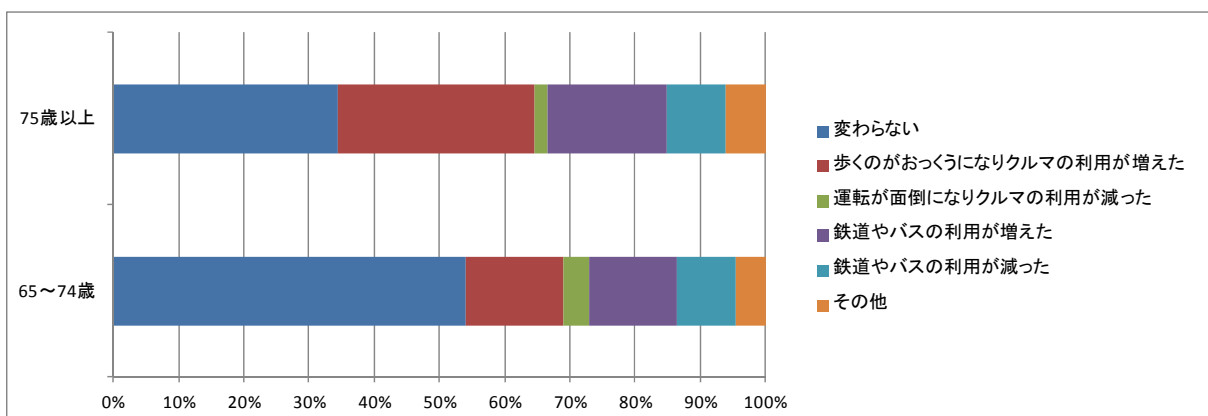
地区別にバス停までの徒歩時間の限度をみると、山西、富士見が丘地区では 20 分までは利用できると回答した方がいる。また、緑が丘、百合が丘、山西、富士見が丘地区にはバスを利用したくても「バス停までの移動や待合いが身体的に困難」と回答した方がいた。



高齢者の移動について

●日常の移動手段の変化（65 歳以上の方を対象）

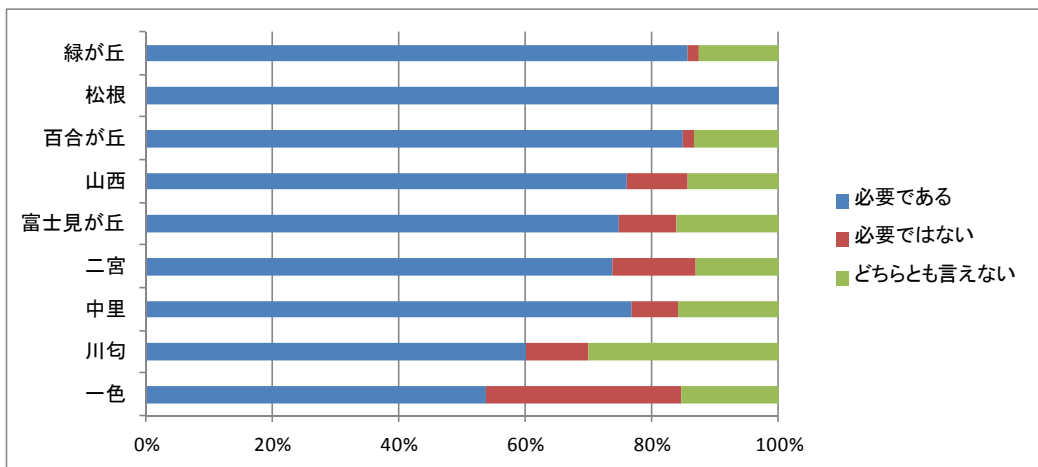
日常の移動手段の変化について、65～74 歳と 75 歳以上で分けてみると、65～74 歳の方は「変わらない」と回答する方が半数以上に対し、75 歳以上では 3 割近くまで減っている。また、75 歳以上では、鉄道やバスの利用の割合も増えているが、「歩くのがおっくうになりクルマの利用が増えた」と答える方も大きく割合が増えている。



二宮町の公共交通について

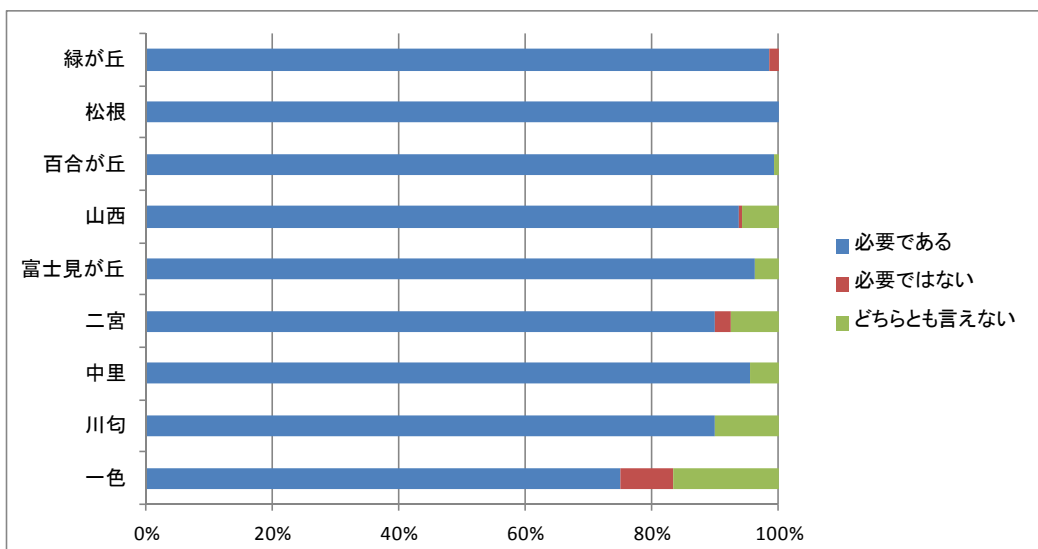
●現状での公共交通の必要性

現状での公共交通の必要性を地区別にみると、公共交通は「必要である」と回答した方の割合が多いのは、緑が丘、松根、百合が丘地区で8割を超えている。一方、川匂、一色地区では、公共交通は「必要である」と回答した方の割合が6割以下となっている。



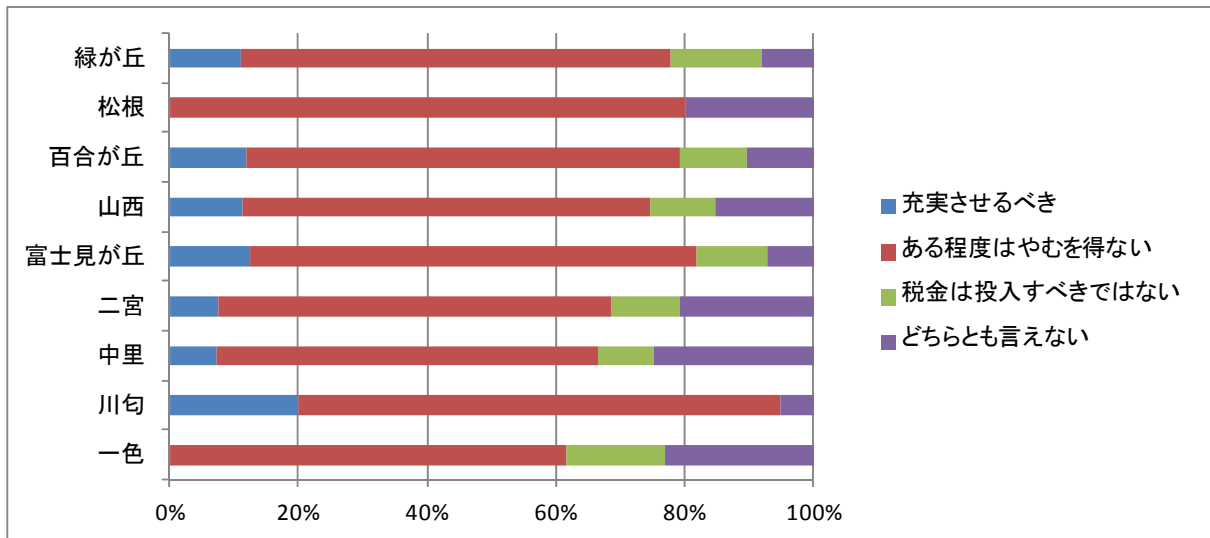
●将来、高齢化が進展したときの公共交通の必要性

将来、高齢化が進展したときの公共交通の必要性を地区別でみた場合も、一色地区では母数が少ないので一概には言えないが、「必要である」と回答した方の割合が、他の地区と比べてやや低い。



●町の負担（税金の投入）について

町の負担（税金の投入）について地区別にみると、各地区で大きな差はみられないが、その中で川勾地区では、さらなる充実を求める割合が多く、税金は投入すべきではないと回答した方がいなかった。



●地域住民の負担について

地域住民の負担について地区別にみると、緑が丘、山西、富士見が丘地区では、半数前後が「負担すべき」と回答している。一方、町の負担をもとめる割合が比較的高かった川勾地区では、住民も負担すべきと回答した方の割合が最も低かった。

